

課題名

窒素施用量とみかんの生育、収量、品質について

成果の要約

県施肥基準より窒素施用量の少ない区で、著しい収量低下がみられた。

成績

草生栽培下での窒素施用量試験（NO-N7の6段階）において、樹体の生育、果実の収量と品質に関する調査を行った。

- (1) 全体に樹体の生育はおう盛で、樹容積は前年より約10%の増加をみた。
- (2) 総着果数（摘果数+収穫果数）は例年より著しく少なく、これを反映して収量も減少した。この傾向は少窒素区で顕著であった。
- (3) 着果数が少ないため果実は大果となり、果皮が粗く果肉歩合が低かった。浮皮の発生も多くみられ、N5、N7区では90%以上が症状を呈していた。
- (4) 果実の着色は良好で、糖度も前年より約1%高く、処理区別ではN2、N3区で高い値を示していた。

概

第1表 窒素施用量と生育、収量

（1樹当たり）

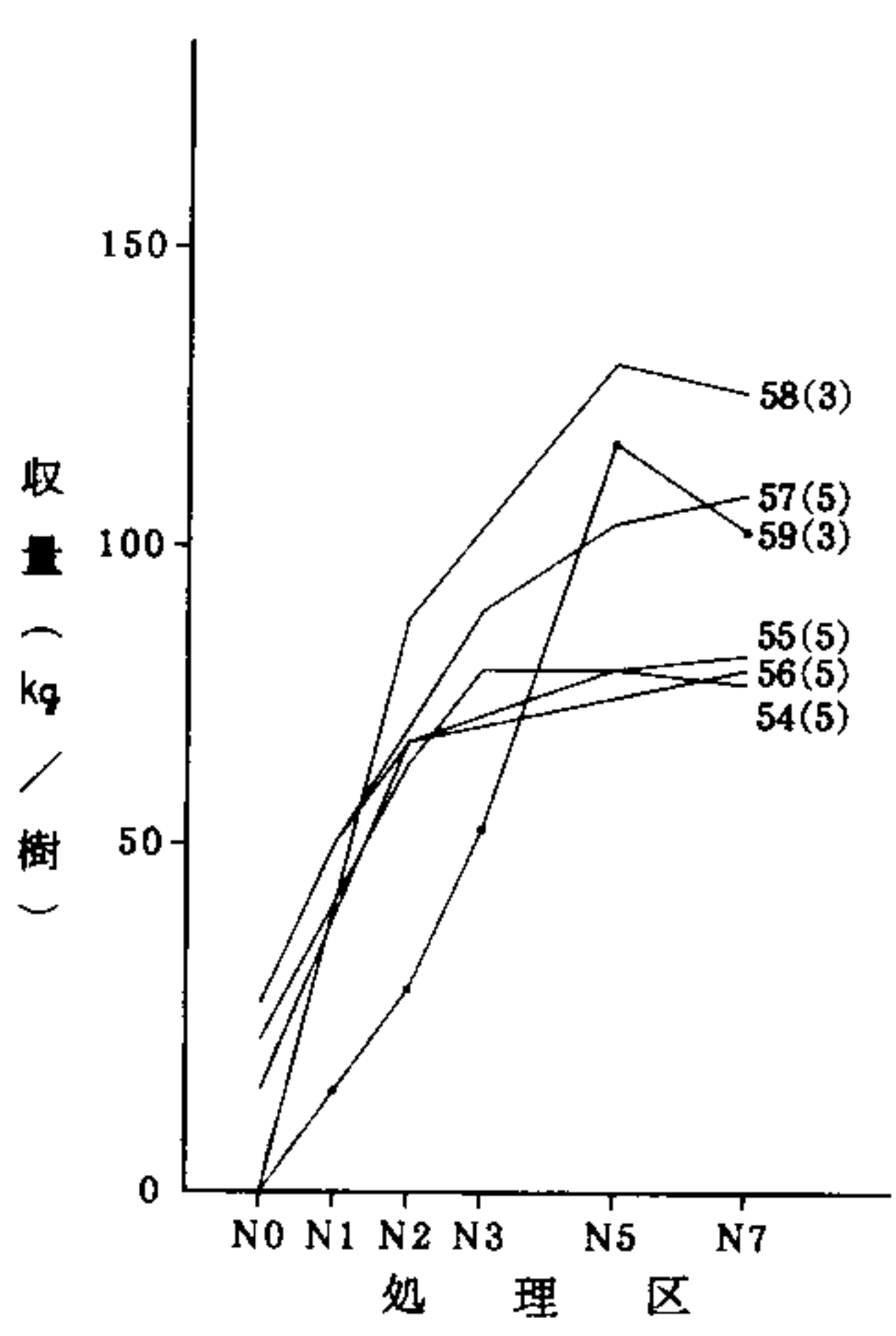
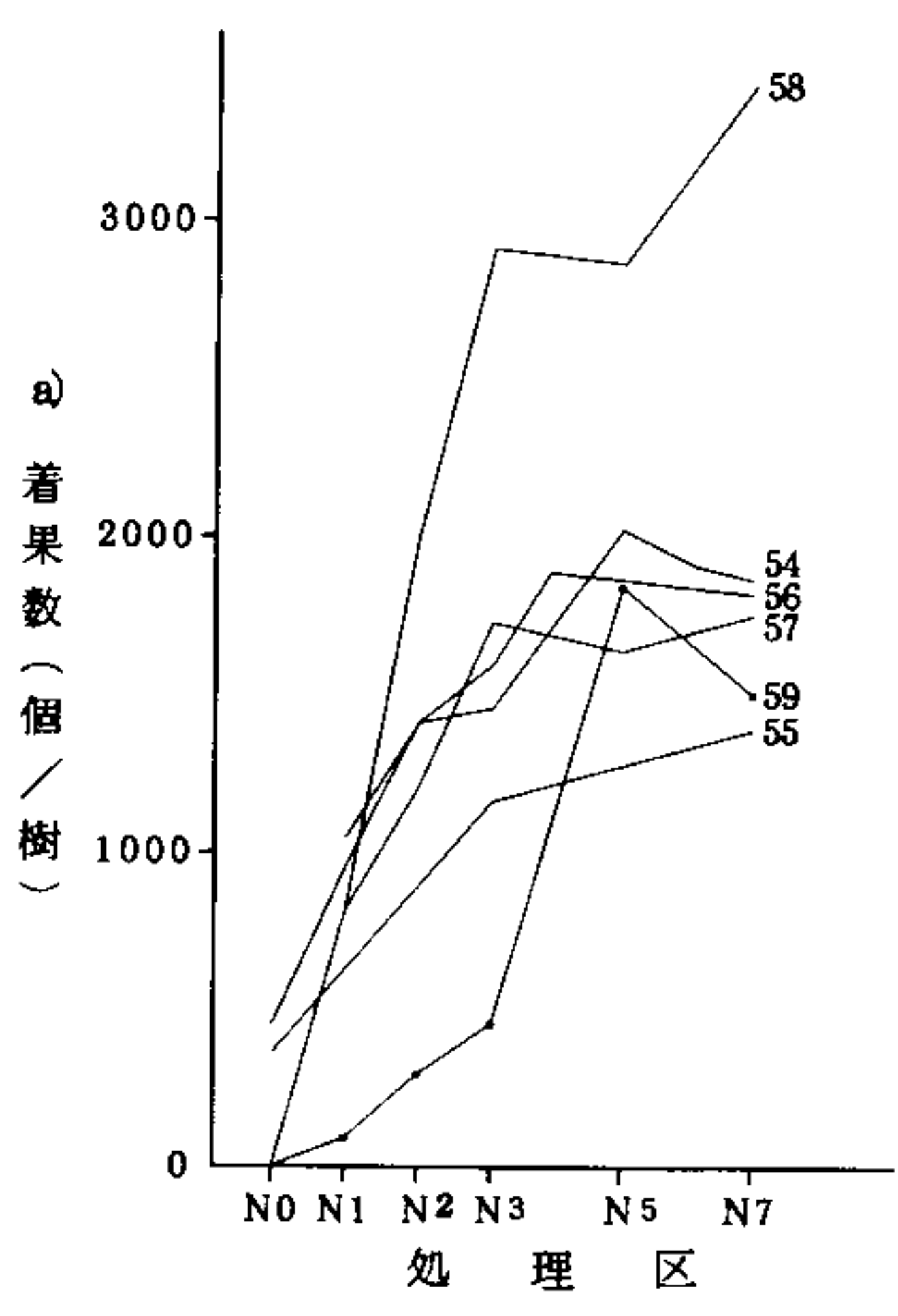
概

要

項目 処理	生 育				収 量			
	幹 周 (cm)	樹容積 (m ³)	樹 高 (m)	樹冠平均径 (m)	重 量 (kg)	果 数 (果)	1果平均重 (g)	
草	NO	37.9	17.4	2.4	3.2	1.3	7	186
	NO-N3	48.6	36.0	2.9	4.2	85.0	724	118
		a)						
	N1	40.3 a	26.1 a	2.6 a	3.7 a	15.8 a	131 a	136 a
	N2	50.2 b	38.5 b	3.0 b	4.2 b	31.9 ab	263 a	130 a
生	N3	55.1 b	40.3 b	2.9 b	4.4 b	57.2 bc	432 ab	135 a
	N5	52.8 b	43.9 b	3.1 b	4.4 b	118.1 e	1009 d	121 a
	N7	56.1 b	45.8 b	3.2 b	4.5 b	103.7 de	873 c	121 a
清	N2	48.1 b	38.9 b	3.0 b	4.3 b	80.1 cd	637 bc	129 a
耕	N5	55.9 b	43.4 b	3.1 b	4.4 b	110.2 de	923 c	124 a

a) 異なる文字間は、5%レベルで有意差。

成
績
概
要



(昭59 長崎果試)

普及上の留意点

- 窒素施用量の少ない区は、春先の落葉が多く、これが収量に大きく影響したものと考えられる。